

10月

尾久二だより

令和5年9月29日
荒川区立尾久第二幼稚園



子供たちと一緒に、自然に目を向けて

今年は特に残暑が厳しい2学期の始まりとなりました。運動会の取り組みや好きな遊びで園庭に出ようとする子供たちですが、暑さ指数が高く外遊びを断念する日が多くありました。保護者の方とも、「暑いですね」「今の子供たちはなかなか外で遊べないですね」とお話をさせていただくことがあり、地球温暖化ならぬ地球沸騰化とはこのことかと肌で感じる9月でした。ようやく朝晩涼しくなり、保護者の皆様も安心されたのではないのでしょうか。

今年度、教職員は園内研究として自然について勉強しており、夏には全員が「センス・オブ・ワンダー」(作：レイチェル・カーソン)を読み、感想などを話し合いました。レイチェル・カーソンは「沈黙の春」で環境問題について語った作家であり海洋生物学者でもあります。「センス・オブ・ワンダー」では、甥のロジャーと海岸や森で探検した際の感動的な体験や、自然の美しさを綴っています。『美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、賛嘆や愛情などの感情が、その対象についてもっと知りたいと思わせ、その時に見つけ出した知識は、しっかりと身につく』とレイチェルは述べています。幼稚園でも、「花が咲いた、きれいだな」「知らない実を見つけた!」「この虫おもしろい」など、子供たちの豊かな感性に触れる瞬間に立ち会うことがあります。その時の感動を子供と分かち合ったり、一緒に再発見したりして、子供たちの「知りたい」と思う機会を逃さないようにしたいと再確認しました。自然に目を向けることは、自分の周りに様々な生き物や命があることに気付くきっかけになります。「異常な暑さや地球温暖化をどうしたらいいのか」を考えることは幼児にとって難しいことかもしれませんが、花や虫を大切にす経験を積み重ねて身の回りの環境を好きになることで、地球を大切にしたいという気持ちの芽生えを育むことはできると思っています。

これから少しずつ秋が深まり、尾久第二幼稚園の園庭にも秋ならではの自然物や生き物が増えていきます。引き続き子供たちと一緒に「センス・オブ・ワンダー(神秘さや不思議さに目を見はる感性)」をはたらかせて自然に目を向け、戸外での遊びを楽しんでいきたいと思います。



レイチェル・カーソン作 上遠恵子訳
『センス・オブ・ワンダー』(新潮社刊)



10月のねらい



うさぎ組

- 友達に関心をもち、一緒に遊ぶことを楽しむ
- 教師や友達と体を動かすことを楽しむ
- 身近な自然に触れ、季節の自然に親しむ



りす組

- 友達と一緒に体を伸び伸びと動かす楽しさと心地よさを味わう。
- 友達と関わって遊ぶことを楽しみ、自分の思いを相手に表していく。
- 秋の自然物に触れ、見たり遊びに使ったりして楽しむ。



いるか組

- 自分なりのめあてをもって運動遊びに取り組み、力を発揮する楽しさや充実感を味わう。
- 友達と共通の目的に向かって、協力して遊びや生活を進める楽しさを味わう。
- 秋の自然に触れ、生活や遊びに取り入れ、表現することを楽しむ。

